渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）主催

第 24 回 SGRA カフェ

クィアの記憶をどう残すか

中国と日本のアーカイブ実践をつなぐ越境対話

2026 年 11 月 29 日（日）16：00〜18：00 （その後懇親会）

昭和女子大学　8 号館 5S04 教室

参加無料

【参加にあたってのお知らせ】

■ 参加には事前登録が必要です。

QR コードまたは URL からお申込みください。
https://forms.gle/YXCgauAh5ePGSB9R9

■ 会場へのアクセス

昭和女子大学　8 号館　5 階　5S04 教室
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

こちらをご覧ください。
https://office.swu.ac.jp/other/campusmap.html

■ お問い合わせ

SGRA 事務局：sgra@aisf.or.jp / Tel: 03-3943-7612

【開催趣旨】

中国と日本におけるクィア（性的マイノリティ・LGBTQ＋）の社会運動の記録とアーカイブ実践を結び、異なる政治的・社会的環境のもとで、**当事者の経験や運動の記憶がどのように残され、共有され、次世代へ継承されてきたのか**を考えるトークイベントです。社会制度などに認められていないためにその存在を知らせる必要があり、存在の持続性を示すために「記憶」を残す行動が大切であり、生存のために不可欠な行為でもあります。

中国側からは北京クィア映画祭に関わり、映画資料と運動史の保存に取り組んできた呉漫氏、日本側からは立教大学教授の杉浦郁子氏が登壇し、運動の内部で蓄積されてきた証言、刊行物、映像、個人資料などを、誰が、どのような責任のもとで保存してきたのかを共有していただきます。

ここで重視するのは、中国と日本を固定的に比較することや、アーカイブを完成した保存庫として見ることではなく、抑圧や忘却に抗しながら関係をつくり直す運動実践として捉えることです。資料の公開が可視化と連帯をもたらす一方で、当事者の安全や同意、プライバシー、運動内部の権力関係といった問題も生じます。両国の経験を交差させることで、長く不可視化されてきている性的マイノリティ・クィアの記憶を越境的に保存・継承する可能性と課題を議論します。

【企画者からのメッセージ】

社会のなかで、誰の記憶が歴史として残され、誰の経験が忘れられていくのでしょうか。中国と日本では、性的マイノリティを取り巻く社会的・政治的環境は異なりますが、当事者たちはさまざまな困難に直面しながら、自分たちの経験や運動の記憶を残そうとしてきました。映画、写真、雑誌、証言などを通じて、何を、誰が、どのように記録し、次の世代に伝えていくのか。本企画では、中国と日本で実際に記録保存に携わってきたお二人を迎え、その経験や葛藤を共有します。アーカイブは単に過去を保存するだけでなく、現在の私たちをつなぎ、未来の可能性を拓く営みでもあります。ぜひ皆さんも、ご自身の経験や疑問を持ち寄り、一緒に語り合いませんか。

【プログラム】

16:00　**開会**　司会：郭立夫（つくば大学）

16:10　**発表①**　呉漫（北京クィア映画祭実行委員）
「映画祭から生きたアーカイブへ：北京のクィアたちの生存戦略」

16:30　**発表②**　杉浦郁子（立教大学）
「自律分散型の小規模アーカイブズの可能性―日本におけるレズビアン・デジタル・アーカイブスの実践から」

16:50　**話題提供**　討論者：于寧（東京大学）

17:00　**登壇者によるクロストーク**

17:30　**ディスカッション・質疑応答**

18:00　**終了**

登壇者紹介

講師：呉漫（ウー・マン　Jenny Man Wu）

映画プロデューサー、キュレーター、研究者。2013 年より北京クィア映画祭に携わり、現在は同映画祭の実行委員および 2026 年の輪番制代表を務める。「華語クィア映画リビング・アーカイブ」を設立するとともに、「感覚のアーカイブ」プロジェクトを立ち上げた。映像の保存、オーラル・ヒストリー、身体表現を通じて、クィアの記憶の保存と継承、そして集合的実践のあり方を探究している。

講師：杉浦郁子（すぎうら・いくこ）

立教大学社会学部教授。論文に「レズビアン解放運動の軌跡とその変容――東京圏、1970 年代半ばから 80 年代後半まで」（『社会運動史研究』6, 2025）、「『すばらしい女たち』にみる日本のレズビアン・フェミニズムの展開――ウーマン・リブとの関係に焦点をあてて」（『現代思想』52(8), 2024）、「レズビアンのコミュニティ資料とアーカイビング――日本の現状と課題」（『現代の図書館』62(2), 2024）、「『レズビアン・デジタル・アーカイブス』の運営と課題」『和光大学現代人間学部紀要』17, 2024）、編集・解説に『レズビアン雑誌資料修正』全 7 巻・別冊（不二出版, 2024）ほか。

討論者：于寧（ウ・ネイ）

東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 D&I 部門特任研究員。国際基督教大学ジェンダー研究センター研究員。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士後期課程単位取得退学。専門領域は中国クィア映画史、クィア・スタディーズ。論文に、「中国における「同性恋」概念の再考――「アジア間相互参照」の視点から」（『中国女性史研究』第 33 号、2024 年)、「中国本土におけるインディペンデント・クィア映画史の再構築――新しい分類法を用いて」(『ジェンダー研究』第 25 号、2022 年)ほか。

司会：郭立夫（グオ・リフ）

2012 年から北京 LGBT センターや北京クィア映画祭などの活動に参加。2024 年東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻で博士号を取得。現在筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局助教。専門領域はフェミニズム・クィアスタディーズ、地域研究。研究業績に、『絶望と共鳴する抵抗：現代中国における性的マイノリティの社会運動』晃洋書房、2027 年 3 月刊行予定。